

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------------|-----------|-----------|
| 事業所番号 | 3591600170 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 健仁会 | | |
| 事業所名 | グループホーム咲花 | | |
| 所在地 | y山口県山陽小野田市大字厚狭字埴生田503番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年3月24日 | 評価結果市町受理日 | 令和2年11月9日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-----------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク | | |
| 所在地 | 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内 | | |
| 聞き取り調査実施日 | 令和2年5月18日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケアの4つの柱「横に座る その人を知る 嘘をつかない ゆっくりと穏やかに」を支援の方針とし接遇研修では挨拶や言葉使いを学び尊厳を大切にしています。咲花は自然に囲まれた地域に立つ複合施設の4階にあります。施設建物はスプリンクラー等の防災設備が整っており、地震等の災害に強い建物です。咲花の大きな窓からは朝日や夕日が入り春には桜並木を見渡せ空が見える中庭があり開放的な空間となっています。建物内にはクリニックがあり、訪問診療や訪問看護、療法士によるリハビリや歯科医師による口腔ケアが受けられる事ができ、利用者様の健康維持に努めています。地域の繋がりを大切に自治会に月に1回事業所便りを回覧させていただき自治会からも広報が配られ事業所の夏祭り紫苑祭にはご家族と利用者様、地域の方も大勢参加されています。また埴生小学校との交流が始まり小学校訪問をしたり、手紙の交換をしたりして人の繋がりが途切れないように利用者様の生活支援をさせていただいています。各部署より各1名選出された企画委員による行事の企画実施は利用者様の活躍の場があり咲花エンジェルズとして歌の会も披露されたり、毎月1回の生け花の会にも参加され張り合いのある生活を送られています。様々な場面で安心・安全に配慮しながら、お一人おひとりが主役となり楽しんでいただけるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会に加入され、事業所より(咲花メール)を自治会に回覧してもらったり、自治会から広報が届いている他、利用者は、自治会主催の納涼祭や地域のお祭り、商店街のお雛様巡りに職員と一緒に出かけたり、法人主催のフクシア文化祭ではコーサージュブリーやお菓子づくり、ボーリング等に参加されて楽しんでおられます。ボランティア(コーラス、腹話術、フラダンスなど)の来訪がある他、小学校の学習発表会の見学や手形アート絆の作成、中学生の職場体験など、日常的に地域と交流しておられます。日々の関わりの中での利用者の何気ない言葉や表情、気づき等を見逃さないようにして「生活、ケアプラン記録」に記録され、思いや意向の把握に努められます。帰宅願望のある利用者が、母校の小学校を職員と一緒に訪問され、6年生の有志が当日の交流内容を考えて進行され、有意義な時間を過ごしておられるなど、馴染みの人や場所との関係継続の支援にも取り組んでおられます。職員の企画による節分行事や咲花エンジェルズ(利用者のコーラス)の「歌の会」や「歩こう会」、月1回の「生け花の会」等、利用者一人ひとりの希望の合わせての楽しみごとや活躍できる場面づくりをされ、利用者の豊かな暮らしを支えるための支援をされています。評価を活かして全職員が急変時の初期対応や応急手当の研修の目標達成に向けて、月1回の内部研修時に応急手当実技研修(誤嚥、心肺蘇生、怪我等の初期対応)を1年間実施されて、事故発生の緊急対応に全職員で取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|---|----|--|
| 57 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26) | 64 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20) |
| 58 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39) | 65 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21) |
| 59 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39) | 66 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5) |
| 60 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39) | 67 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13) |
| 61 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50) | 68 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32) | 69 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 63 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:29) | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 朝礼やユニット会議の時に基本となる姿勢「理念」「ケアの4つの柱」を皆で唱和することで、利用者様との関わり方について意識し業務にあたっている。また職員全員に共有できるように名札の裏やスタッフルームにも掲示し毎日目に触れるようにして日々の支援に活かしてしている。法人の接遇研修には誰もが参加でき、理念をもとの勉強できる機会がある。 | 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、「4つの柱」と共に事業所内に掲示している。事業所だよりに掲載している他、全職員は名札の裏にも記載し、朝礼や月1回のユニット会議時にも唱和して確認し、理念を共有して実践につなげている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の商店街のおひなさまめぐりや、お祭りや納涼祭に参加している。施設前に地域に古くから伝わる、大名行列や御神輿が来てお参りをさせてもらっている。地域ボランティアの方が家族会に参加され腹話術やフラダンス、エレクtoon演奏をしてくださった。毎月、咲花メールを自治会に回覧してもらい、自治会からは広報が届けられている。 | 事業所だより(咲花メール)を自治会に回覧してもらい、自治会よりは広報が届いている。利用者は、自治会主催の納涼祭や地域の祭り(鴨神社の春と秋のまつり、蛍祭り、天神祭等)、商店街のお雛様巡りに、職員と一緒に出かけ、地域の人と交流している。花火大会では、事業所の4階から地域の人と一緒に花火見物をしている。法人主催の「フクシア文化祭」では、利用者はフェルトを使ったコースージュをつくったり、お菓子釣りやボーリング等に参加して、地域の人との交流を楽しんでいる他、利用者で結成している「咲花エンジェル」が4曲の歌(もみじ、丘を越えてなど)を披露しているなど、家族や地域の人と交流している。ボランティア(エレクtoon演奏、腹話術、フラダンス、コーラス、三味線、生け花の会など)の来訪がある。小学校の学習発表会に出かけ、共同作品(手形アート絆)の作成や中学生の職場体験等で交流している。散歩時や手紙の投函時には近所の人と挨拶を交わしている他、花や野菜の差し入れがあるなど、地域の一員として日常的に交流している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議の際、咲花に上がって頂き、利用者様手作りのスイートポテトでお茶会をし開催し交流をすることで認知症の理解に繋げている。文化ホールで行われている法人の理学療法士による生活改善リハビリセミナーはご家族、自治会長、民生児童委員、地域の方にご案内し多くの参加があり喜ばれている。 | / | |
| 4 | (3) | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。 | 毎年1月に自己評価・外部評価の勉強会を行った後、自己評価に取り組むことで、支援についての見なおしの機会としている。前回の評価を活かして、応急手当研修を継続し参加者をチェックすることで全員がレベルアップできるようにした。 | 管理者は、勉強会時に評価の意義について説明し、自己評価をするための書類を配布し、全職員が記入後にユニットリーダーと管理者でまとめている。不明なところなどは会議時に話し合いをしている、職員は自己評価を、日常の支援の振り返りと捉えている。評価結果を受けて目標達成計画を立て、応急手当研修に参加し、急変時に全職員が実践対応できるように取り組んでいるなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。 | |
| 5 | (4) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は2ヶ月に一回開催し、利用者様情報や・咲花メール・活動報告またその折々に懸案事項として意見交換をしている。地域からの行事のお誘いや、事業所から防災訓練や行事の呼びかけをし、サービス向上に活かしている。 | 会議は2ヶ月に1回開催し、利用者状況、活動報告、サービス提供状況の報告、事業報告、身体拘束適正化の検討、施設食の試食会、研修報告等の後、話し合いをしている。地域の行事紹介や事業所からの防災訓練、行事の紹介をしているなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 | |
| 6 | (5) | ○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議に毎回市職員の出席があり、利用者様状況の報告や日々の取り組みを報告することでアドバイスを受けている。地域の方から介護保険のことや、山陽小野田市の現状について答えて頂いている。 | 市担当者とは運営推進会議時の他、電話や出向いて情報交換をしたり、助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や認知症支援ネットワーク会議棟で、情報交換を行い、連携を図っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | (6) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 咲花勉強会で年1回、身体拘束について勉強をしている。身体拘束ゼロについて異議を理解し、尊厳を大切にしたい利用者様への声掛けや対応に注意している。身体的拘束適正化検討委員会を設置し、3か月に一度身体拘束について意見交換の場としている。 | 「身体拘束適正化検討委員会」を設置し、3ヶ月に1回開催している。職員は内部研修で学び、身体拘束の内容や弊害、虐待について正しく理解している、スピーチロックについても職員間で話し合っている。玄関は施錠をしないで、外出したい利用者とは、職員と一緒に出かけたり、気分転換の工夫をしているなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | |
| 8 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 定期的に高齢者虐待関連法について勉強会を行い虐待とはどのようなことなのか具体的な行為や弊害について学んでいる。リーダーは外部の虐待についての講習会に参加しミーティングで職員に伝えて理解、実践に繋げている。 | | |
| 9 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在、成年後見制度を使われている方はいないが、必要に応じて支援できるようにしている。勉強会で制度について学ぶ機会を設けている。 | | |
| 10 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には管理者・リーダーが重要事項説明書や契約書に添って、ゆっくり丁寧に説明を行っている。その中でご家族からの質問や不安などの相談を受け理解・納得を図り同意を得ている。介護保険改訂の情報は書面をもって説明し、契約書と一緒に保管のお願いをしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 契約時に重要事項説明書にて要望・相談窓口、第三者委員の設置をお願いしている。年に一回のアンケートでご家族から意見をいただいたり、面会時にはお茶をお出しし世間話から要望までお話し易い雰囲気努め要望が出た際は、連絡帳にて全員に回覧し、管理者はすぐに対応がとれるように会議等で検討している。 | 苦情、相談受付体制や第三者委員を明示し、処理手続きを定めて、契約時に家族に説明している。面会時、運営推進会議時、年3回の家族会議時、行事参加時、電話、年1回のアンケート等で、家族からの意見を聞いている。家族から面会時にいつも座っているようなので、もっと歩かせて欲しいとの要望があり、職員間で話し合い、職員と一緒に厨房に食事を取りに行くことをケアプランに追加支援として挙げ、ケース記録に会話等を含めて記録し、支援につなげている。年1回、アンケートを実施して、事業所だよりで公表している。意見や要望は、要望書や連絡帳に記録し、職員間で共有している。 | |
| 12 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回ユニット会議では、職員の意見聞く機会を設けている。トイレのウォシュレット便座の取り付けや、他利用者様の視線を気にされる方に考慮してテーブルを2つ増やした。休憩が1時間できるように業務改善した。 | 管理者は年1回のユニット会議時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中でも意見や提案を聞いている。トイレのウォシュレット便座の購入、利用者の入れ替りが多く、馴染めない利用者の対応方法についての提案からテーブルを2台から4台に増やしたり、食事介助の必要な利用者のためのサイドテーブルの購入、職員の休憩時間の改善など、反映させている。 | |
| 13 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 実務者研修は法人が場所を提供することで負担が少なく受講することができる。資格手当も付きスキルアップを目標に介護福祉士の受験資格取得に意欲的な職員が多くみられる。希望休や有給休暇も取りやすくしている。法人全体で定期的にノー残業デーを設けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | (9) | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 咲花勉強会は年間計画を立て、講師を職員自身が交代で行い自分自身に意識向上やスキルアップに繋がっている。月1回の法人研修では、誤嚥・窒息・AED使用までの流れを学ぶ応急手当研修と、接遇研修がある。作業療法士による実技講習に参加し技術向上に努めている。 | 外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。今年度は「知っておきたい医学の基礎知識、すぐに役立つ実践講座」、「認知症ケアの正しいアセスメントの視点と対処法」など年8回参加している。受講後は復命報告書を提出し、資料はいつでも閲覧でき、職員間で共有している。法人研修は、月1回、誤飲、窒息、AED使用までの一連の流れを学ぶ応急手当、接遇研修に参加している。内部研修は年間計画を作成し、職員が交代で講師を務め、身体拘束、個人情報とプライバシー、感染症及び食中毒の発生予防及び蔓延防止、事故発生時の緊急対応、再発予防等を実施している。新人研修は法人研修終了後は日常業務の中で管理者や先輩職員から指導を受けて、働きながら学べるように支援している。 | |
| 15 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域ケア会議や外部研修に参加しお互いに情報交換をしている。法人内でも他事業所との研究発表の場を設け意見交換を行っている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 16 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前の見学や面談の機会を設け環境の変化に戸惑われないようにしている。お茶などを利用者様と飲んで頂きながら、ゆっくりと関わりの時間を持ち、さりげなく不安や要望を聞いている。その際の情報は回覧し職員で共有できている。 | | |
| 17 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 施設サービスの問い合わせには法人相談員が丁寧に対応している。契約時には重要事項説明書に添って時間を掛けて丁寧に説明し入居前に不安を解消できている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 18 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 法人の相談員・ケアマネ・管理者・担当者が入居前情報から現状を把握しどのような支援が必要なのか検討している。咲花は口腔ケア・リハビリ(物理療法)等、要望があればすぐに利用できるようにしている。 | | |
| 19 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 厨房にワゴンを押し食事を取りに行かれたり、洗濯たたみ・お盆拭き・おしぼり巻き・食器の片付けを一緒に行っている。料理の味付けや、巻き寿司作りのコツを教わっている。 | | |
| 20 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 咲花の行事への参加、理・美容院や外食・外出・外泊(自宅)など、様々な場面でご家族の力を借りながら利用者様の生活を支えている。 | | |
| 21 | (10) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 娘様からハガキやプレゼントが届くと、お礼のハガキを送られる。行きつけの美容院に継続して行かれており馴染みの美容師さんにカットしてもらっている。自身の出身校へ訪問され在校生の歓迎を受け喜ばれた。 | 家族の面会や親戚の人、友人、知人の来訪がある他、手紙や電話での交流の支援をしている。地域の鴨神社の春祭りや寝太郎祭り、商店街のお雛さまの祭りや買い物などを通して友人、知人との交流を支援している他、帰宅願望のある利用者が、家族の了解の上で、母校の小学校を職員と一緒に訪問し、6年生が当日の交流内容を考えて進行し、有意義な時間を過ごしている。家族の協力を得ての馴染みの美容院の利用や外食、外出、外泊など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。 | |
| 22 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | リビングでは相性を考慮しテーブルを増やしたり席替えを随時行っている。リビングや廊下にはソファがあり、気の合う人同士で日向ぼっこや、お話をされている。おやつ作りや散歩・歌の会ではユニット間での交流もある。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 23 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去された方にはメッセージ付き思い出アルバムを作成しお渡ししている。ご家族が退去された後も干支の切り絵や絵画作品を届けて下さっている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 24 | (11) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ケアプランの更新の際や、普段何気なく言われたことや、されたことを見逃さないように記録している。思いや意向に関するところは担当がマーカーでチェックし一目で把握できるようにしている。 | 入居前の基本情報を活用している他、日々の関わりの中での利用者の何気ない言葉や表情、様子等を「生活、ケアプラン記録」に記録している。思いや意向に関連するところに一目で分かるようにマーカーでチェックして、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は本人本位に検討している。 | |
| 25 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前情報で利用者様の生活歴や環境・既往歴などを知ることができているが、契約時や面会時にご家族から直接お話を伺い、生活歴・趣味・得意とされることなどをお聞きして入居時情報として追記し回覧している。 | | |
| 26 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 生活記録表に食事量・水分量・排便や入浴・睡眠の状況を記入することで一目で身体状況がわかるようにしている。ケース記録に一日の生活の記録を記入して、その場面での言葉を書きその中から生活状況変化や思い・支援への課題をユニット会議で検討し対応を決めている。毎日口頭での申し送りをして、しっかり把握するようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 27 | (12) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケアプランは3か月毎に見直しを行っている。日々の会話の中やご面会時にご家族からご要望をお聞きし課題を含めて話し合いをしている。現状の変化があった場合は医師・看護師のアドバイスを取り入れている。 | 計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に、ユニット毎に月1回、カンファレンスを開催し、本人、家族の意向を聞き、主治医や看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。毎日のサービス状況をチェック表に記入し、評価して1ヶ月毎にモニタリングを実施し、3ヶ月毎に見直しをしている。利用者の状態や家族の要望に変化があれば医師、看護師の意見を参考にしてその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。 | |
| 28 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケース記録に支援状況や会話内容を記入し日々の支援内容が分かるようにしている。毎日サービス実施状況が分かるチェック表に記入することでひと月のケアの実践結果が分かり易く、介護計画の見直しに繋げている。個人連絡帳に心身の状態の変化や処方変更を記入し職員間で情報を共有できている。 | | |
| 29 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 施設全体の春祭りや夏祭り・文化祭があり歌を披露されたり、生け花や書道を楽しむ機会がある。訪問看護や医師の往診があり、健康管理ができています。定期的に協力医療機関の歯科の往診があり口腔ケアや義歯の調整・歯の治療を受けている利用者様がおられる。 | | |
| 30 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域のボランティアによるフラダンスや腹話術・演奏会・コーラスの方が来ておられる。地域の30分ボランティアの方の協力で食介や花植えの協力をして下さっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | (13) | <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p> | <p>かかりつけの耳鼻科や眼科・精神科などご家族の協力のもと受診されている。ご家族の付き添いが難しい時は職員が付き添い支援をしている。</p> | <p>本人や家族の同意を得て事業所の協力医療機関をかかりつけ医としている。週1回の訪問診療と訪問看護を受けている。他科受診は家族の協力を得て支援している。歯科は希望に応じて往診がある。受診結果は医師からの「健康診断表」を確認し、職員間で共有し、家族には毎月送付している。急変時には24時間オンコール体制で連絡相談ができ、協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。</p> | |
| 32 | | <p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p> | <p>24時間のオンコール体制で連絡相談ができるようになっている。週に1回訪問看護があり、心身の健康状態を報告しその都度相談に応じてもらっている。</p> | | |
| 33 | | <p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p> | <p>入院時にはサマリーを作成し、利用者様の様子や薬等の情報を医療機関に報告している。居室は30日取り置きできるようになっている。医療機関と退院に向けてのカンファレンスをしており早期退院に向けて調整している。</p> | | |
| 34 | (14) | <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p> | <p>契約時に重度化及び看取りの指針について説明している。看取りについては早い段階からご家族・医師・看護師等の話し合いの機会をもっている。終末期に入られた利用者様のご家族には医師からの説明があり話し合いの場を設けている。状態の変化がある度にご家族に随時意思の確認をしながら、最期の時まで尊厳を保ち適切に支援をしている。</p> | <p>契約時に「重度化及び看取りに関する指針」に基づいて家族に説明している。実際に重度化した場合は、医師からの説明を受け、家族の意向を聞き、医療機関や他施設への移設、看取りを含めて関係者で話し合い、方針を決めて共有し、チームで支援に取り組んでいる。</p> | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|---------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (15) | ○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。 | 法人に応急手当委員による応急手当研修があり研修を行っている。事業所でも月1回の研修会を行い、応急手当や初期対応の実践的な訓練を繰り返し行っている。事故発生時にはすぐに報告書を提出し会議等で議題にあげ再発防止に努めている。普通救命講習Ⅰに2名が受講し急変時の対応が的確にできるようにしている。 | 事例が生じた場合は、インシデント、アクシデント報告書に発生状況や対応、経過、今後の対応策を記録し、回覧している。ユニット会議時に再発防止について話し合い、介護計画に反映して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。普通救命講習に2名の職員が受講し、急変時の対応に取り組んでいる他、法人の応急手当委員による応急手当の研修を受講した職員が講師となり、月1回の内部研修時に誤飲、意識不明、骨折、救急救命法、事故発生時の対応や実践的な訓練を繰り返し行い、全職員が実践力を身につける支援の充実に取り組んでいる。 | ・応急手当や初期対応の定期的訓練の継続 |
| 36 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 施設全体に年に3回夜間を含む火災・地震想定防災訓練を行っている。防災委員が避難ルートや避難方法を考え利用者様全員参加の避難訓練を行っている。リハビリスタッフによる研修では消火器の使い方・緊急時の搬送方法の訓練をした。地域緊急連絡網を作成し推進会議で呼びかけ避難訓練時に連絡網を回した。 | 拠点施設全体で年3回、夜間を含む火災、地震想定防災訓練を、利用者全員も参加して実施している。通報訓練、避難訓練、消火訓練、避難経路の確認、防災機器や設備の点検などを地域の人の参加を得て実施している。リハビリスタッフによる消火器の使い方や緊急時の搬送方法の訓練もしている。運営推進会議の中での話し合い、災害時の連絡網を作成し、避難訓練時に連絡網を使っての訓練をしているなど、地域との協力体制を築いている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 37 | (17) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 接遇研修では尊厳を傷つけない言葉使いや丁寧な挨拶などの指導を受け学んでいる。プライバシー保護の勉強会を行っている。トイレ介助は声掛けに配慮を行い膝掛けで無駄な露出を避けるようにしている。 | 法人の接遇研修や内部研修(個人情報とプライバシーの保護)で学び、利用者を人生の先輩として尊敬の念を持ち、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応の時には話し合いをしている。個人記録の保管や取り扱いに留意すると共に、守秘義務についても職員は理解している。 | |
| 38 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 飲み物の好みやレクリエーションの参加、家事の手伝いの声掛け等日常生活の様々な場面で選択できるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 39 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日頃の寄り添いや生活歴からその方にあった暮らし方を考え、職員の都合ではなくその方のペースに合わせて1日を過ごして頂くよう柔軟に対応している。居室のホワイトボードに事前に行事を記入し参加されている方もおられる。 | | |
| 40 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 移動美容室ではご本人の希望をお聞きしカット・染め・パーマなどを決めている。馴染みの美容室に通われている人もおられる。起床時には目元・口元などの整容を心掛け髭剃りや爪切りの支援も行っている。 | | |
| 41 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 職員と厨房におかずを取りに行ったり下膳・食器洗い・おしぼり巻き等準備から後片付けまで一緒にしている。 | 御飯と汁物は事業所で作り、副食は三食とも法人の厨房からの配食を利用している。利用者の状態に応じての形状の工夫をして食べやすいようにしている。差し入れの野菜(柚子、ネギ、キュウリなど)や果物(夏ミカン、柿など)、事業所の菜園で採れた野菜(青ネギ、ハナッコーリー、春菊など)を汁物に入れたりして、一品をくわえている。利用者は厨房まで食事を取りに行き、盛り付け、配膳、下膳、食器洗い、テーブル拭き、コップや茶碗拭きなど、できることを職員と一緒にしている。毎月1日は「赤飯の日」となっていて、厨房からのメッセージカードが添えられている。季節に応じてのおやつづくり(スイートポテト、夏の涼菓子、おはぎ、柏餅など)や行事食(おせち料理、そうめん流し、敬老の日の祝膳、クリスマス、年越しそばなど)、事業所による外食(天婦羅店、カフェ、ファミリーレストランなど)の他、誕生日には利用者の希望の場所での外食や家族会での花見弁当などの他、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。 | |
| 42 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎日管理栄養士が立てた献立を提供している。食事量・水分量は毎日記録をし、摂取状態を把握している。状態に合わせて、お粥や刻み食、むせこみのある方には水分にとろみを付けてお出ししている。朝食はパンの習慣のある方には菓子パンをお出ししている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 週に一回協力歯科医療機関の医師等に口腔ケアや必要であれば治療も受けておられる。月に一回口腔ケアに関するケアのアドバイスをもらっている。 | | |
| 44 | (19) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 各利用者様のサインをつかみその方の排泄パターンを把握しトイレの声掛け誘導を行っている。車椅子の利用者様は介助バー持ち立っていただき便座に座り排泄ができることを大切にしている。 | ケース記録を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮しての言葉かけや誘導をしている他、車椅子の利用者は介助レバーを利用して便座に座ってもらうなど、個別の排泄支援に取り組み、排泄の自立に向けた支援を行っている。 | |
| 45 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日排便チェックを行い便秘傾向のある方には、乳製品やオリゴ糖を利用している。ラジオ体操やリハビリスタッフが行うリハビリ体操に参加、苑内外の散歩などで適度な運動をすることで便秘予防に努めている。引継ぎで排便状況を把握したうえでその方に応じた薬で対応している。 | | |
| 46 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 入浴は季節に合わせてゆず湯や菖蒲湯で楽しんで入っていただけるように工夫している。入浴ができない時には、清拭・足浴・手浴を行っている。 | 入浴は毎日可能で、14時から20時の間にゆっくりと入浴できる支援をしている。入浴の順番、時間、入浴剤の利用、季節の柚子湯や菖蒲湯など、利用者の希望や好みに応じ、ゆったりとくつろいで入浴できるように支援している。入浴したくない人には無理強いをしないで、時間の変更や声かけの工夫、職員の交代、入浴後の楽しみを伝えるなどの工夫をしている。利用者の体調に応じて清拭、足浴、手浴などの対応をするなど、個々に応じた支援をしている。 | |
| 47 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 廊下やリビングには、ソファや椅子を置き天気の良い日には中庭を眺めながら過ごされている。夜間はその方に応じて全灯や豆球にしたり、コタツで休まれる方もおられる。また就寝時テレビを観ながら休まれる方もおられる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | お薬情報はお薬手帳に張り付け他科受診の時はお渡しし、各ユニット毎にコピーし服薬情報を確認できるようにしている。変更時にはケース記録の看護欄・個人ノートに記入し情報が共有できるようにしている。 | | |
| 49 | (21) | ○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 毎月の生け花の会や作業療法士によるリハビリ体操・毎週水曜日のレッドコードを楽しみにして参加されている。利用者様の趣味を活かし毛筆で献立を書かれたり歌の会・漢字計算ドリル・塗り絵・読書などそれぞれの得意とされること、楽しんでいただけることを考えて支援をしている。 | 新聞や雑誌を読む、テレビやDVDの視聴、書き初め、福笑い、折り紙、カルタ、漢字パズル、数字並べ、ボール遊び、歌の会、歩こう会、リハビリ体操、床掃除、テーブル拭き、カーテン開閉、新聞たたみ、布団干し、洗濯物たたみと収納、生け花、花瓶の水換え、野菜の植え付けや収穫、プランタンの水やり、食事の準備、盛り付け、配膳、下膳、食器洗い、毛筆での献立書き、餅つき、おやつづくり、季節の行事(母の日、七夕、花火大会、クリスマス、節分の豆まきなど)、歌謡ショー、合同誕生日会、ことわざクイズ、手話での歌(世界に一つだけの花)など、楽しみごと、活躍できる場面づくり、気分転換等の支援をしている。 | |
| 50 | (22) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 地域の方から納涼祭や、おひなさまめぐりの案内があり戸外に出掛けられるよう支援している。地元のご友人に会いたいと希望されご家族の協力のもと会いに行かれた。お誕生日には利用者様の希望に添って外出し、お好みのお食事でお祝いをしている。また施設で開催されている夏祭り紫苑祭に行ってみたいと要望があり、ご家族と参加され大変喜ばれた。 | 周辺の散歩、ウッドデッキでの外気浴、季節の花見(バラ、桜、梅、コスモスなど)、ドライブ(花の海)、初詣、地域の春祭り、秋祭り、お雛様めぐり、蛍祭り、納涼祭、寝太郎まつり、ピアガーデン、歌謡ショー、誕生日の外食(カフェ、ファミリーレストランなど)、ホテルでの歌謡ショー、角島へのドライブなどの他、家族の協力を得ての馴染みの美容院の利用、外出、外泊、買い物、墓参り、法事など、戸外に出かけられるように支援をしている。 | |
| 51 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 施設売店や近所のスーパーで買い物されたり外出行事でお土産をご自分で支払うことができるように支援をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 母の日にお花を貰われた時の写真をハガキにし、お礼の手紙を書いていただいた。携帯電話をお持ちの方は知人に電話をかけておられる。 | | |
| 53 | (23) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関は明るく季節感のある置き物や生け花等で迎えられるように心掛けている。気候に合わせて空調管理を行い直射日光が当たらないように日除けをし、不快のない生活空間を作っている。掃除や換気も毎日行い清潔に配慮し居心地良く過ごせるよう心掛けいる。 | 玄関やリビング、廊下には季節の置物や生花等を飾り、壁面には絵画を飾っている。リビングやキッチンが広く、テレビやソファ、机、椅子等は利用者が使いやすいように配置しており、大きな窓からは緑の風景が見渡せ、明るい陽射しが差し込んでいる。広い廊下にはソファやテーブル、椅子等を配置し、利用者がゆったりとくつろげる居場所となっている。温度、湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせるように工夫をしている。 | |
| 54 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングや廊下にはソファや大小のテーブルを配置している。仲の良い利用者様同士でテレビを観たり外を眺めながら談笑されたり、おひとりでくつろがれたりと思い思いに過ごされている。 | | |
| 55 | (24) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時にご自宅で使われていた馴染みのある家具やコタツやテレビなどを持って来ていただいている。ご家族との思い出の写真やご家族が書かれた絵画を飾られている。 | ベット、布団、箆笥、衣装ケース、テレビ、コタツ、机、椅子、ソファ、鏡台、ぬいぐるみ、クッション、雑誌、家計簿、時計、メモ帳、携帯電話など、使い慣れたものや大切なものを持ち込み、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | |
| 56 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 建物はバリアフリーで廊下やトイレには握り易い高さに手すりがあり、利用者様が安全に過ごせるように配慮してある。お好きな時に車椅子を自走され本棚から本を借りたり返したりされている方もおられる。トイレの表示は高さや読み方を工夫して分かり易くしてあり、その方の能力に合わせ使用ができるようにしてある。 | | |

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム咲花

作成日: 令和 2 年 11 月 8 日

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|--------------------|-------------------------------------|--|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 35 | 応急手当や初期対応の定期的訓練の継続 | 職員全員が利用者様の急変時に落ち着いて応急手当が実践できるようにする。 | 毎月の内部研修で「応急手当研修」を実施し、急変時に落ち着いて実践対応出来るようにする。全員が同じレベルになるように研修参加者をチェックし取り組んでいく。 | 1年 |
| 2 | | | | | |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。